

4 退院患者の状況

(1) 退院患者平均在院日数

ア 施設の種類・年齢階級別

平成17年9月中に退院した推計患者124万7千人(病院112万4千人、一般診療所12万3千人)の在院日数の平均である退院患者平均在院日数を施設の種類別にみると、病院39.2日、一般診療所21.6日となっており、これを平成14年と比べると病院は0.9日短く、一般診療所は2.6日長くなっている(図7)。

年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるに従い退院患者平均在院日数は長くなっている(図8、統計表13)。

図7 施設の種類別にみた退院患者平均在院日数の年次推移

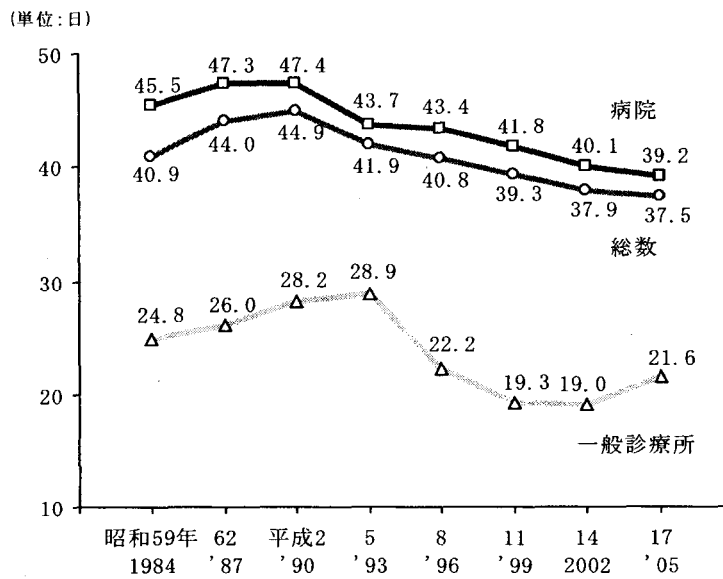
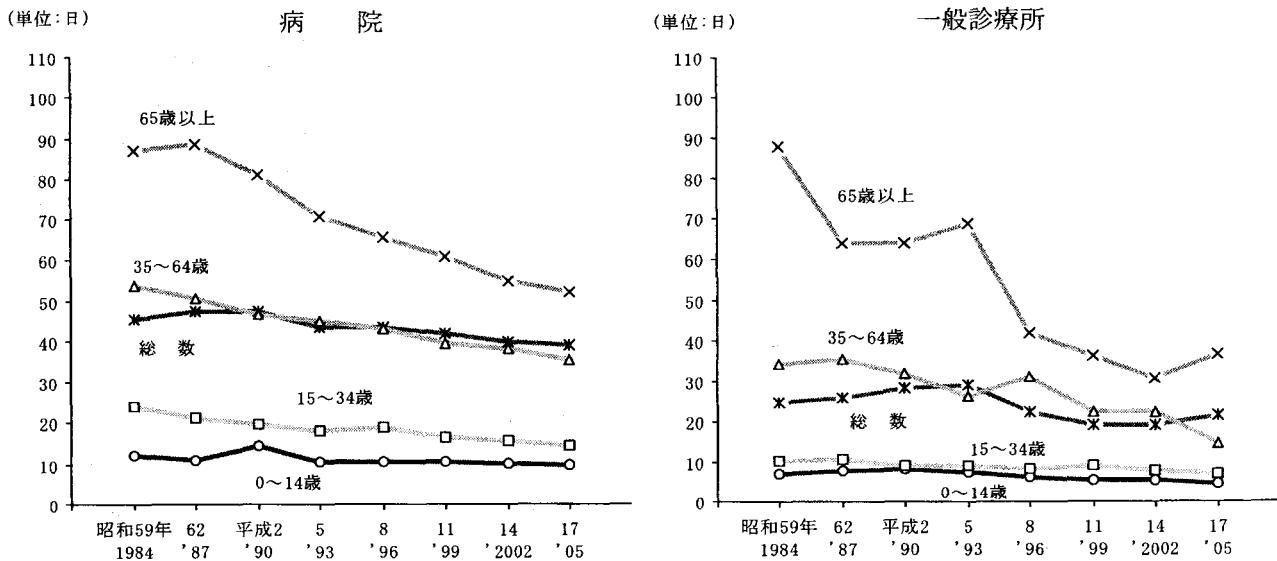


図8 年齢階級別にみた退院患者平均在院日数の年次推移



イ 傷病分類別

退院患者平均在院日数を傷病分類別にみると、長い順に「V 精神及び行動の障害」が298.4日、「VI 神経系の疾患」66.6日、「IX 循環器系の疾患」56.0日となっている（表11）。

表11 傷病分類別にみた年齢階級別退院患者平均在院日数

平成17年9月1日～30日

傷病分類	総数	男	女	0～14歳	15～34	35～64	65歳以上	70歳以上(再掲)	75歳以上(再掲)
総数	37.5	36.8	38.1	9.4	13.2	34.0	50.8	52.5	56.9
I 感染症及び寄生虫症	23.5	25.5	21.5	5.5	9.5	22.9	38.9	40.9	43.9
結核 (再掲)	71.9	72.6	70.9	35.0	44.4	81.9	72.3	70.9	73.5
ウイルス肝炎 (再掲)	23.7	24.3	22.9	8.0	16.4	21.2	30.2	37.5	46.7
II 新生物	24.6	24.6	24.7	24.2	17.6	19.5	28.6	30.0	33.1
胃の悪性新生物 (再掲)	34.6	32.0	40.1	18.0	21.1	30.5	36.5	37.2	41.6
大腸の悪性新生物 (再掲)	30.7	26.7	36.2	12.2	17.5	25.3	33.8	34.6	40.9
肝及び胆管内胆管の悪性新生物 (再掲)	26.9	25.7	30.3	26.1	135.8	20.2	29.0	30.9	35.8
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	34.1	34.1	34.0	33.5	30.4	28.5	36.6	37.3	39.1
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	26.0	30.2	23.4	16.0	11.7	23.6	33.6	34.2	35.7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	31.5	29.3	33.7	9.0	15.0	25.8	38.4	40.7	44.4
糖尿病 (再掲)	34.4	30.7	38.8	16.4	18.9	25.6	42.6	46.7	55.1
V 精神及び行動の障害	298.4	362.1	244.8	33.8	65.3	305.7	450.7	399.3	346.8
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	330.5	283.4	358.9	-	13.1	320.0	331.2	328.2	334.5
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	609.5	761.6	471.6	95.8	103.3	557.5	1 499.5	1 433.0	1 286.1
VI 神経系の疾患	66.6	53.0	83.5	24.5	40.1	47.2	93.5	101.5	110.9
VII 眼及び付属器の疾患	9.8	8.5	10.9	5.8	9.6	14.0	8.7	8.9	7.3
VIII 耳及び耳様突起の疾患	12.7	15.6	10.7	6.9	10.4	11.0	16.5	12.6	14.7
IX 循環器系の疾患	56.0	43.1	71.4	14.1	14.5	29.9	67.0	72.4	83.2
高血圧性疾患 (再掲)	41.4	31.2	46.6	17.7	12.4	14.5	49.3	54.1	58.6
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	27.8	20.2	38.4	17.0	14.4	17.8	32.1	34.9	40.8
脳血管疾患 (再掲)	101.7	81.4	123.8	21.4	41.3	58.7	114.4	121.0	134.8
X 呼吸器系の疾患	28.6	25.8	32.3	6.1	8.5	17.4	47.3	48.7	52.0
喘息 (再掲)	14.8	13.5	16.4	6.0	7.7	13.1	43.9	48.7	50.7
XI 消化器系の疾患	19.4	18.1	21.1	5.5	9.8	17.9	24.6	25.9	27.0
歯及び歯の支持組織の疾患 (再掲)	5.8	6.7	5.0	2.4	6.7	4.6	6.0	6.0	7.6
食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	25.1	20.1	31.9	10.8	6.9	27.9	26.5	28.4	25.5
肝疾患 (再掲)	30.0	29.2	31.1	11.1	13.4	26.1	36.5	38.5	42.3
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	22.2	21.2	23.3	7.0	13.2	19.4	31.9	33.5	35.2
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	37.8	30.6	43.0	16.2	16.9	27.5	49.6	52.4	57.9
XIV 泌尿器系の疾患	25.2	22.0	28.7	9.8	7.6	16.1	36.4	39.1	42.2
XV 妊娠、分娩及び産じょく	7.6	-	7.6	5.1	7.6	7.9	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	11.6	11.5	11.8	11.6	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	19.2	20.1	18.1	15.9	15.0	37.9	24.1	22.3	23.7
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.6	19.0	22.0	6.3	6.7	16.0	28.0	29.8	33.2
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	37.8	30.8	44.6	8.2	16.1	30.2	52.9	55.4	58.1
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5.8	4.6	6.5	5.7	5.9	3.2	10.7	11.3	11.8
歯の補てつ (再掲)	3.6	4.0	3.1	2.0	3.5	2.9	4.8	6.5	9.7

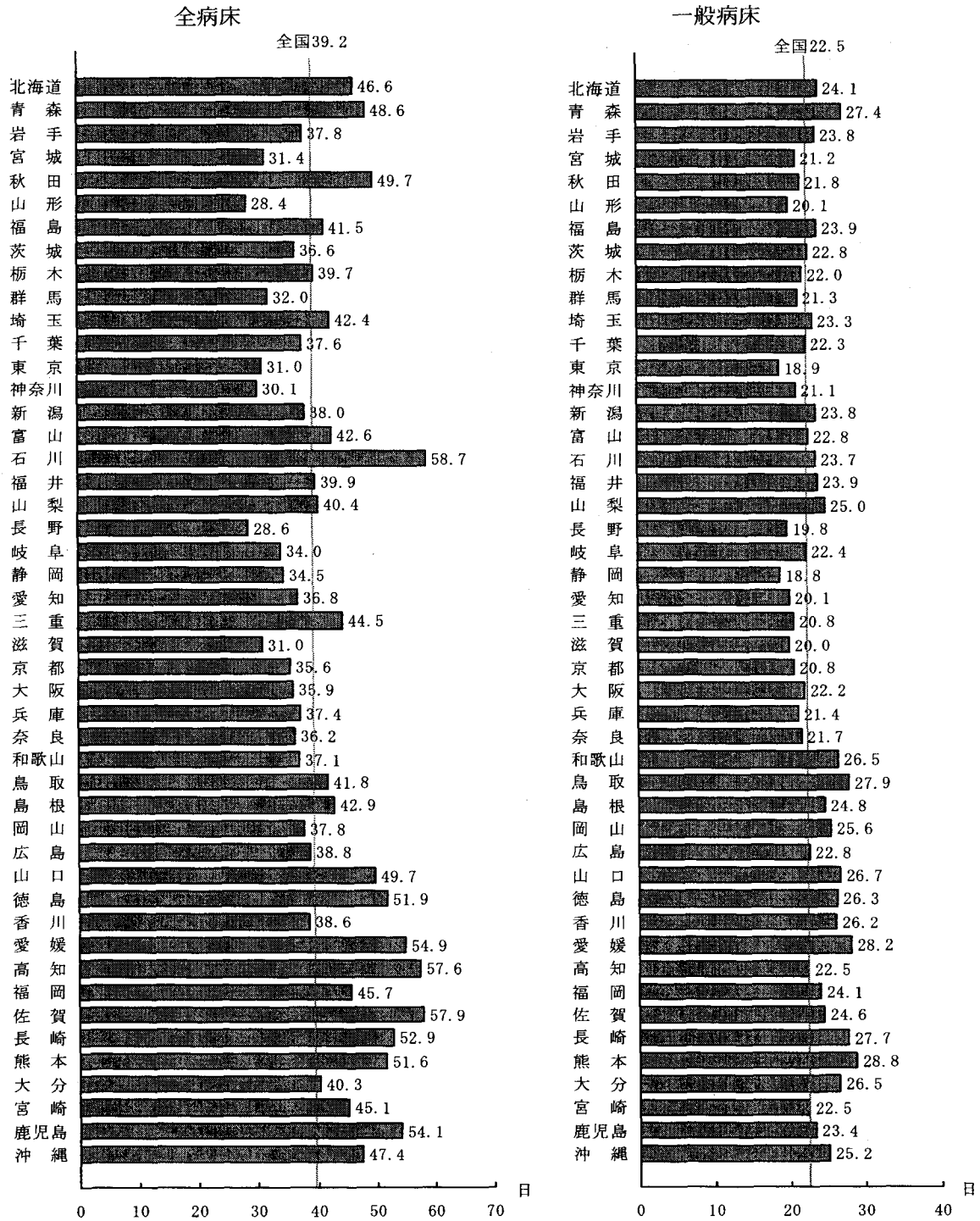
注：総数には、年齢不詳を含む。

ウ 都道府県別

病院の退院患者平均在院日数を都道府県（施設所在地）別にみると、石川が58.7日と最も長く、山形が28.4日と最も短い。一般病床についてみると、熊本が28.8日と最も長く、静岡が18.8日と最も短い。（図9）

図9 都道府県（施設所在地）別にみた病院の退院患者平均在院日数

平成17年9月1日～30日



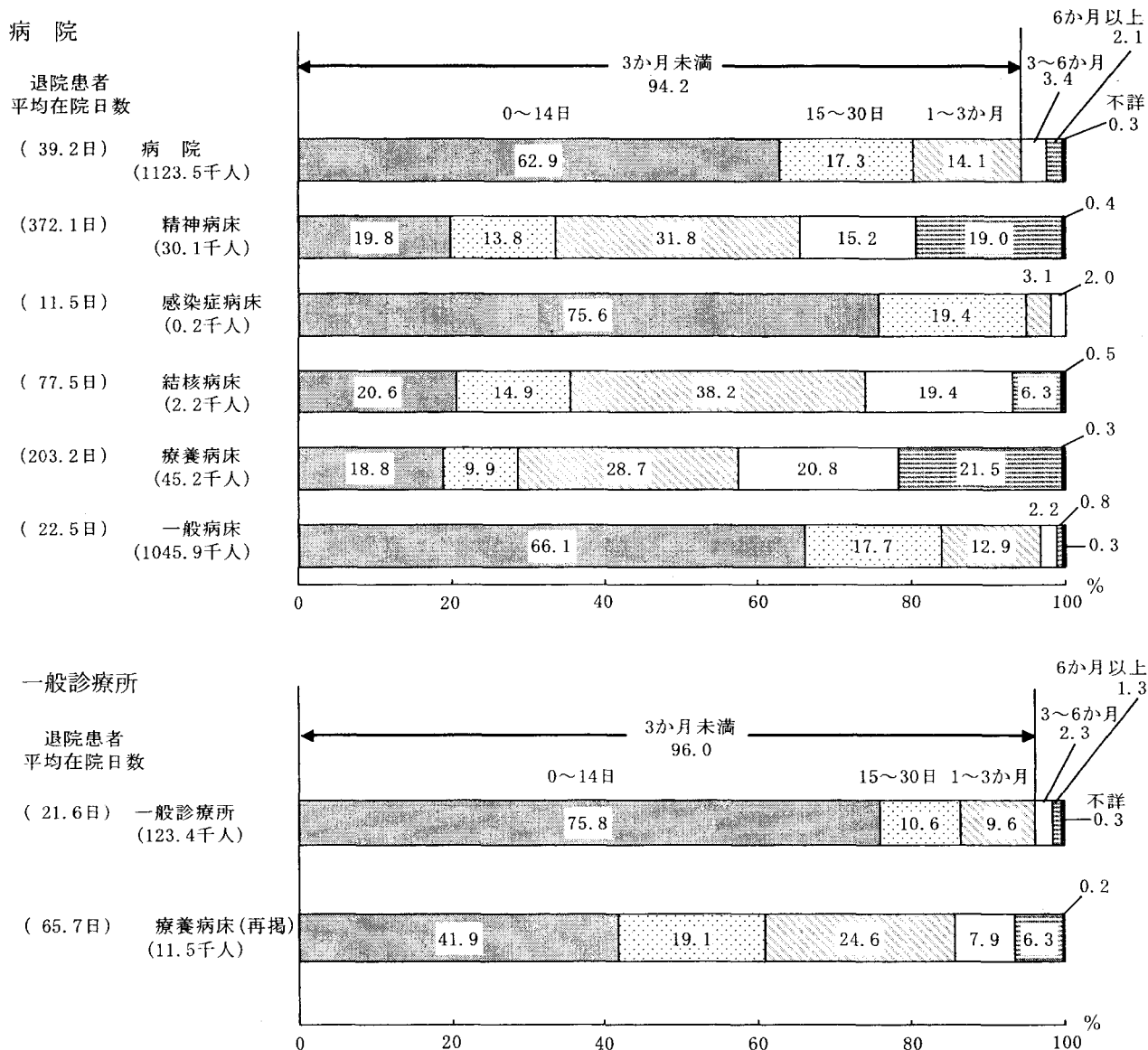
(2) 在院期間

平成 17 年 9 月中に退院した患者の在院期間の構成割合を施設の種別別にみると、病院は「0～14 日」62.9%、「3 か月未満」94.2%、一般診療所は「0～14 日」75.8%、「3 か月未満」96.0%となっている。

病院の病床の種別別にみると、「6 か月以上」は、精神病床が 19.0%、療養病床が 21.5%となっている。(図 10)

図 10 病床の種別別にみた在院期間の構成割合

平成 17 年 9 月 1 日～30 日



注：1 病床の種類は退院時のものである。
 2 () 内は、推計退院患者数である。

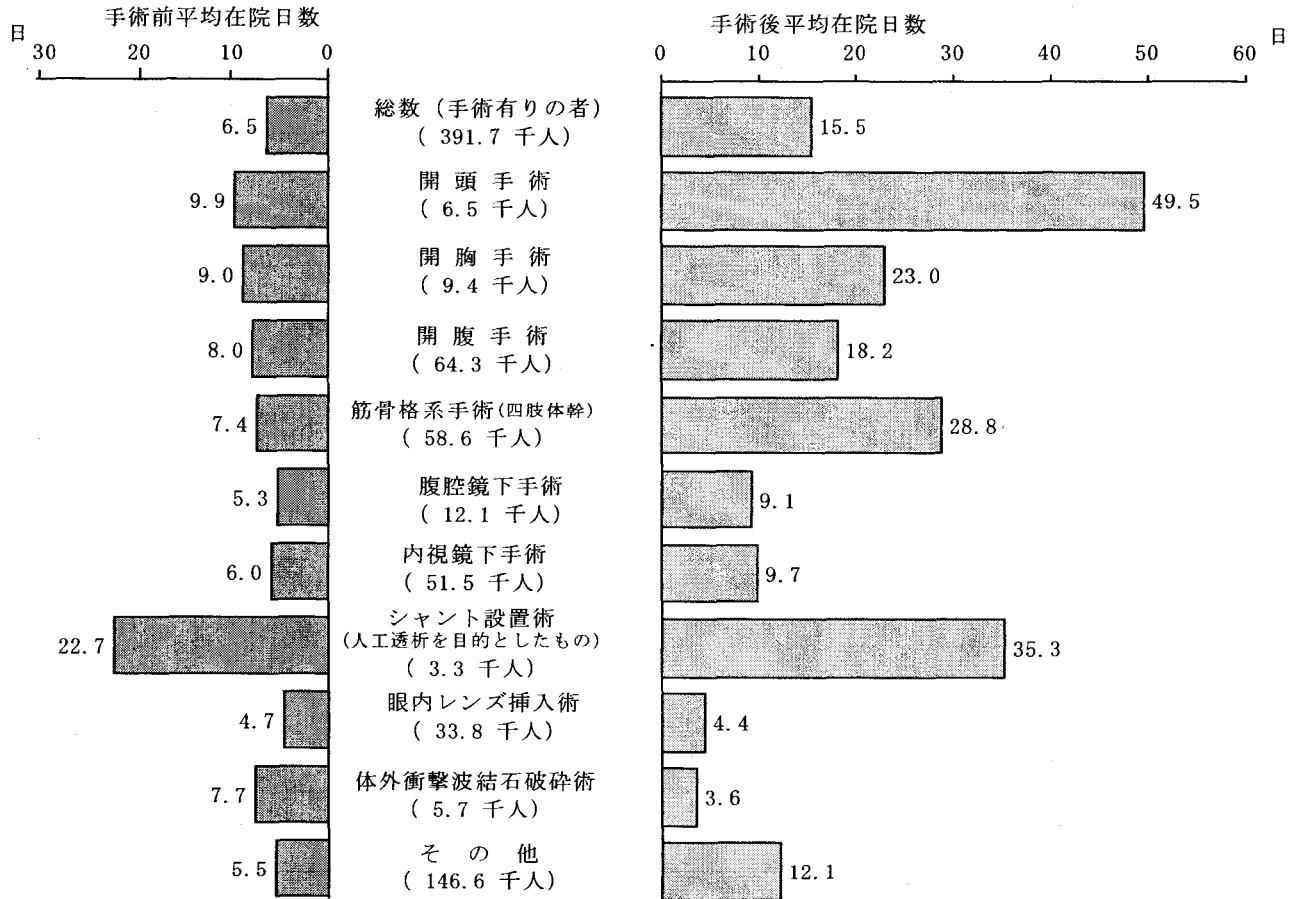
(3) 手術前在院日数・手術後在院日数

平成17年9月中に退院した患者のうち手術有りの者についてみると、手術前平均在院日数は6.5日であり、「シャント設置術」の22.7日が最も長く、「眼内レンズ挿入術」の4.7日が最も短い。

手術後平均在院日数は15.5日であり、「開頭手術」の49.5日が最も長く、「体外衝撃波結石破碎術」の3.6日が最も短い。(図11)

図11 手術名別にみた手術前平均在院日数・手術後平均在院日数

平成17年9月1日～30日

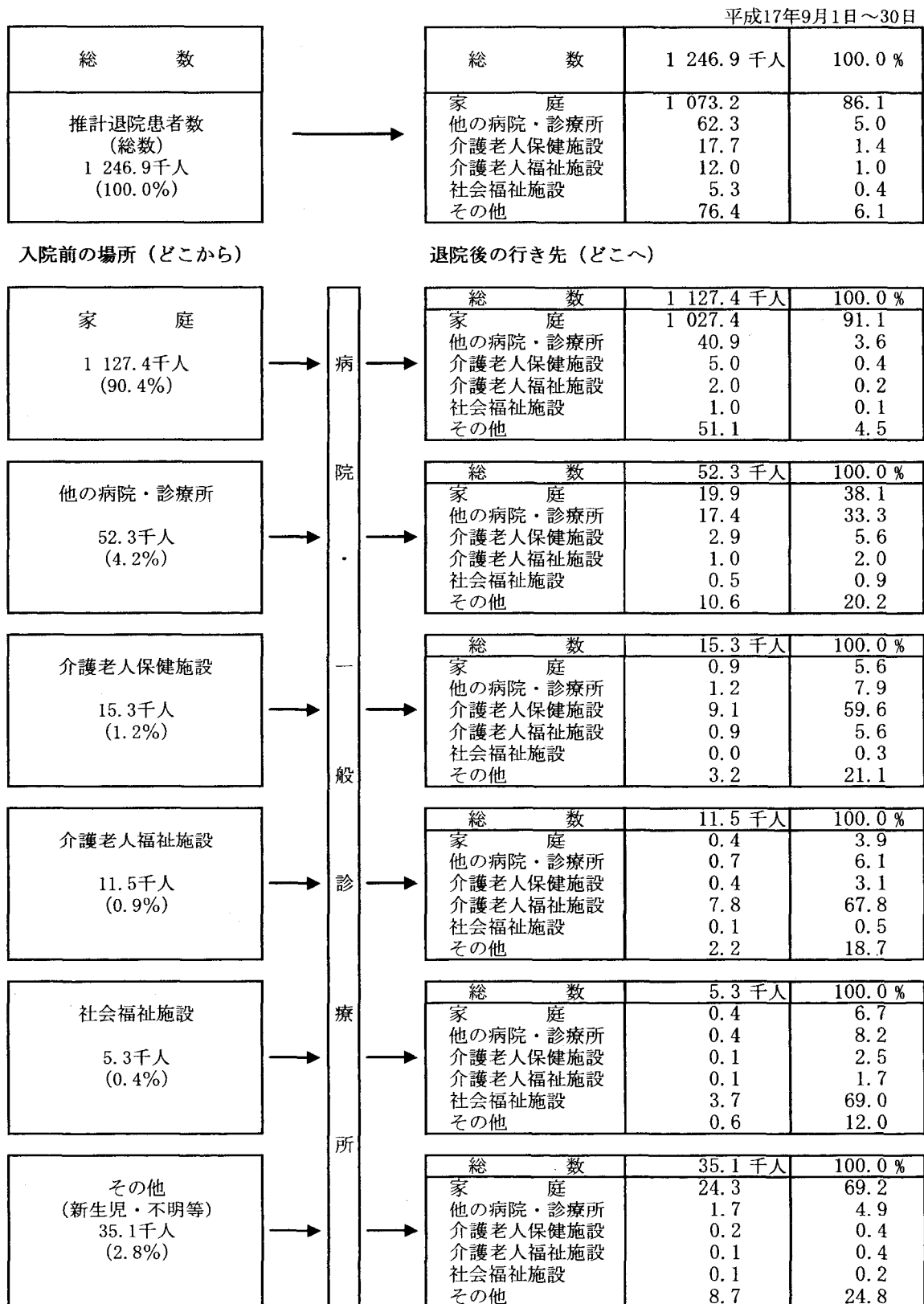


- 注：1 「開頭手術」とは、頭蓋骨を広範囲に開窓する方法により行われる外科手術をいう。
 2 「開胸手術」とは、胸壁を切開し胸腔に達する方法により行われる外科手術をいう。
 3 「開腹手術」とは、腹壁を切開し腹腔に達する方法により行われる外科手術をいう。ただし、開胸開腹手術については、開胸手術としている。
 4 「筋骨格系手術」とは、四肢体幹を切開し、筋、腱、関節、骨、神経に達する方法により行われる外科手術をいう。
 5 「腹腔鏡下手術」とは、腹腔鏡を用いた外科手術をいう(腹腔鏡下胆嚢摘除術、腹腔鏡下婦人科手術等)。
 6 「内視鏡下手術」とは、内視鏡、ファイバースコープを用いた外科手術をいう(内視鏡的ポリープ切除術、食道静脈瘤硬化療法等)。
 7 「シャント設置術」とは、人工透析(導入)を目的として内・外シャントを設置する外科手術をいう。
 8 「眼内レンズ挿入術」とは、眼内レンズを挿入する外科手術をいう。
 9 「体外衝撃波結石破碎術」とは、体外衝撃波結石破碎装置を用いた外科手術をいう(体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、体外衝撃波胆石破碎術)。
 10 「その他」とは、上記以外の外科手術をいう。

(4) 入院前の場所・退院後の行き先

入院前の場所についてみると、「家庭」が112万7千人で推計退院患者の90.4%となっている。また、退院後の行き先についてみると、「家庭」が86.1%となっている。(図12)

図12 入院前の場所・退院後の行き先別推計退院患者数・構成割合



注：1 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療も含む。

2 退院後の行き先における「その他」とは、退院後の行き先が特定できない者で、死亡・不明等も含む。

(5) 退院の事由 (転帰)

退院の事由をみると、「治癒」が7.1% (8万9千人)、「軽快」が69.1% (86万1千人) となっている。また、「不変」が7.3% (9万1千人)、「悪化」が0.7% (9千人) となっている。

退院後の行き先別にみると、「家庭」「介護老人保健施設」「介護老人福祉施設」及び「社会福祉施設」では、「治癒」と「軽快」を合わせた割合が8割を超えている。

病床の種類別にみると、病院の「一般病床」では、「治癒」と「軽快」を合わせた割合が約8割となっている。(図13、図14)

図13 退院後の行き先別にみた退院の事由別推計退院患者数の構成割合

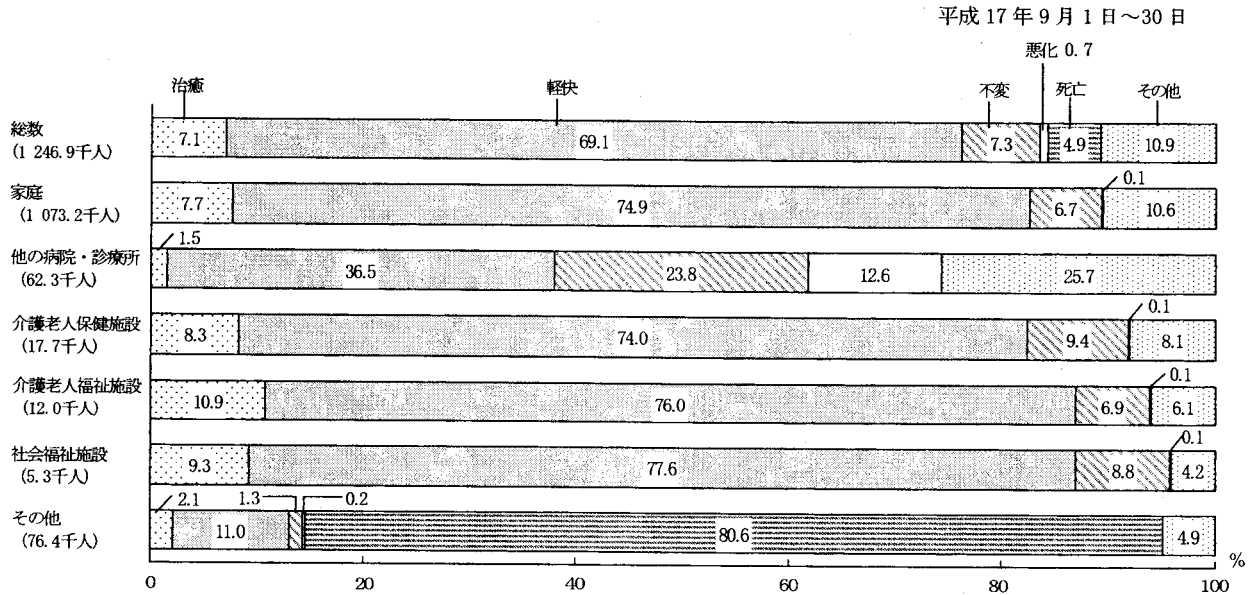
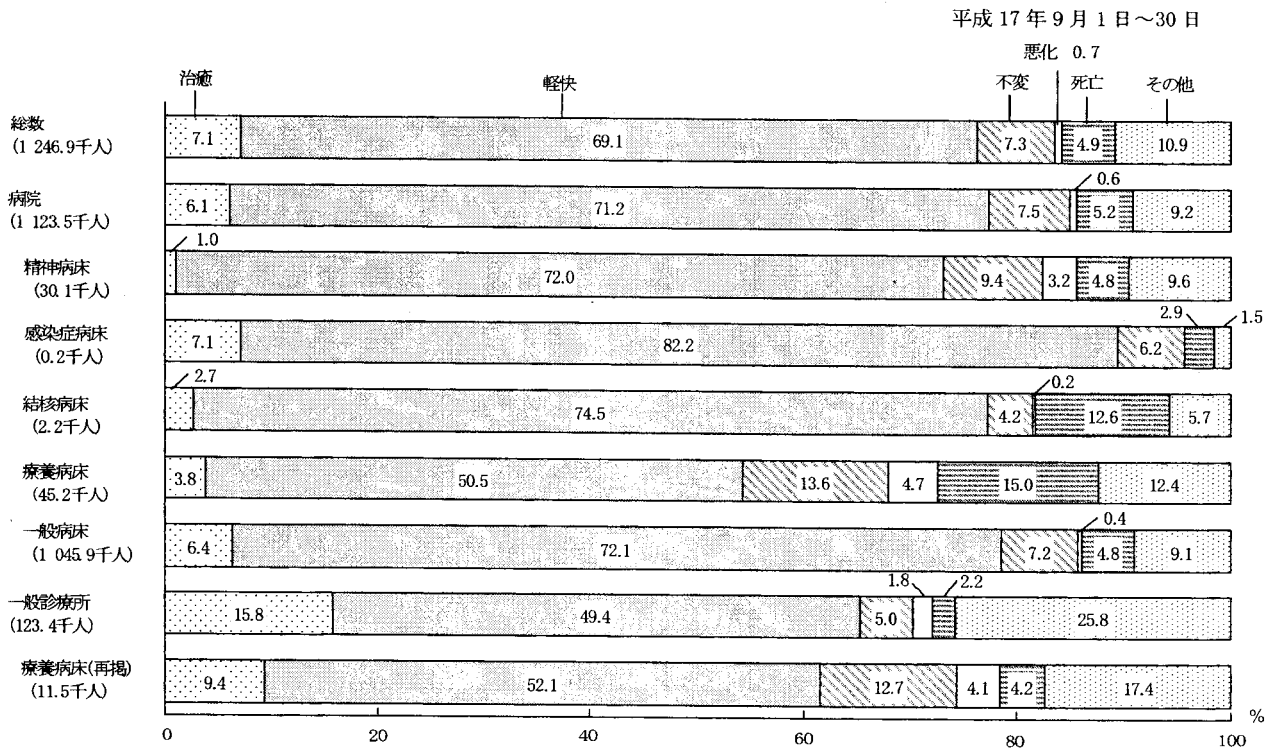


図14 病床の種類別にみた退院の事由別推計退院患者数の構成割合



5 主要な傷病の総患者数

主要な傷病についての総患者数は、「高血圧性疾患」約 781 万人、「歯及び歯の支持組織の疾患」約 566 万人、「糖尿病」約 247 万人、「悪性新生物」約 142 万人、「脳血管疾患」約 137 万人、「白内障」約 129 万人となっている（表 1 2）。

表 1 2 主要な傷病の総患者数

(単位：千人) 平成17年10月

	総数	男	女
結核	39	20	18
ウイルス肝炎	410	208	202
悪性新生物	1 423	792	630
胃の悪性新生物	208	135	73
大腸の悪性新生物	214	115	99
肝及び肝内胆管の悪性新生物	68	46	21
気管，気管支及び肺の悪性新生物	123	79	44
乳房の悪性新生物	156	2	154
糖尿病	2 469	1 323	1 147
血管性及び詳細不明の認知症	145	46	99
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	757	362	396
パーキンソン病	145	64	81
アルツハイマー病	176	47	128
白内障	1 288	377	913
中耳炎	221	110	111
高血圧性疾患	7 809	3 126	4 691
虚血性心疾患	863	461	403
脳血管疾患	1 365	666	699
喘息	1 092	550	542
歯及び歯の支持組織の疾患	5 664	2 384	3 280
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	632	336	297
肝疾患	312	180	132
アトピー性皮膚炎	384	187	197
関節リウマチ	317	64	253
前立腺肥大(症)	459	459	.

注：総患者数は表章単位ごとの平均診療間隔を用いて算出するため、男と女の合計が総数に合わない場合がある。

※総患者数（傷病別推計）とは

総患者数とは、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者も含む。）の数を次の算式により推計したものである。

$$\text{総患者数} = \text{入院患者数} + \text{初診外来患者数} + \text{再来外来患者数} \times \text{平均診療間隔} \times \text{調整係数 (6/7)}$$

